

児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり

—。授業改善のポイント。—

指導と評価の一体化を図るために

児童生徒に「力」を付ける授業づくりを行うためには？

「指導と評価の一体化」を図りたいけど、何から始めたらよいのか…

まず、単元（題材）で育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の計画を立ててみましょう！

教師からの説明が中心で、児童生徒の発表や活動が少なくなってしまう…

児童生徒が自分の考えをもつことができるような学習活動を工夫してみましょう！



「授業改善」と言われても、何をどのように改善したらよいのか分からな…

児童生徒の振り返りや評価の結果を手掛かりに、授業を見直してみましょう！

児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくりに向けて、指導と評価の一体化を図るために、P D C Aサイクルを意識した授業改善を行うことが重要です。

研究教科

小学校図画工作科



小学校外国語科



中学校理科



中学校音楽科



中学校美術科



授業改善のポイント

I. 指導と評価の一体化を図るために

指導と評価の一体化を図るために、児童生徒一人一人の学びを支える評価を重視することが大切です。教師が指導のねらいに沿って授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが求められます。

そのためには、教師が自身の授業を継続的に評価・改善するために、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の4つのプロセスを繰り返すP D C Aサイクルを意識し、計画的に授業改善を行うことが大切です。

授業改善のP D C Aサイクル



文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」を基に作成

授業改善のポイント

II. P D C Aサイクルを意識した授業改善

P D C Aサイクルを意識した授業改善のポイントを、段階ごとに整理しました。

P D C Aサイクルを意識した授業改善では、特に、Check（評価）とAction（改善）の段階を意識し、機能させていくことが必要です。

本研究では、CheckとActionに焦点を当て、P D C Aサイクルを意識した授業改善について提案します。

P

Plan…指導計画等の作成



Planは、児童生徒の学びの姿をイメージしながら、指導と評価の計画等を立てる段階です。

- 学習指導要領の内容等を基に、単元（題材）を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- 単元（題材）の目標を設定し、評価規準を作成する。
- 単元（題材）の指導と評価の計画を立てる。



Planの段階では、評価の場面や方法を考え、単元（題材）のどの時間で「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を行うのかについて検討します。「記録に残す評価」は、評価を行う場面を精選しながら設定することが大切です。

D

Do…指導計画等を踏まえた教育の実施



Doは、立てた指導と評価の計画等に基づいて授業を行い、児童生徒の学びを支える実践を行う段階です。

- 単元（題材）を通して、児童生徒の学習の見通しを共有し、振り返りを位置付けることで学びを支援する。
- 毎時間のねらいに即して、児童生徒の学習状況を把握しながら授業を行う。
- 「指導に生かす評価」を基に、児童生徒の学習状況を捉え、その場で指導を行う。



Doの段階では、授業の中で「指導に生かす評価」を通して、学習指導と学習活動の改善と充実を図ることが大切です。そのためには、児童生徒の学習状況を、発言や行動、一人一台端末やワークシートの記述などから見取ることが重要です。

C

Check…児童生徒の学習状況、指導計画等の評価



Checkは、児童生徒の学びの状況を把握し、学習の成果や課題を振り返る段階です。

- 自己評価・相互評価を通して、児童生徒が自分の学びを振り返る機会を設定する。
- 児童生徒の学習の成果と学びの実感の両面から評価する。
- 上記の2点を基に、単元（題材）の目標又は毎時間のねらいに即した学習の展開や活動等について振り返る。



Checkの段階では、授業の中で児童生徒一人一人の学びに応じて「指導に生かす評価」を行なながら評価資料を集めます。そして、単元（題材）、学期や学年などの期間で「記録に残す評価」を行います。その際、評価・評定のための評価とならないように留意することが大切です。

A

Action…授業や指導計画等の改善



Actionは、学習の成果や課題の振り返りを基に、次時の授業や次の単元（題材）に向けた改善を行う段階です。

- 学習の成果や課題の振り返りを基に、単元（題材）全体の構成を再検討し、単元（題材）の目標又は毎時間のねらいに即した学習の展開や活動について見直し、改善を行う。
- 児童生徒の振り返りや評価を基に、単元（題材）の指導方法、教材等について見直し、改善を行う。
- 授業の記録や評価の結果を活用し、継続的な授業改善につなげる。



Actionの段階では、Checkの段階での振り返りや評価を基に、教師の指導改善と児童の学習改善を図ることが大切です。そのためには、Planの段階で作成した単元（題材）の指導と評価の計画などに、Doの段階での実践での気付きや課題などを記録し、次のPlanに生かすようにします。

CheckをActionへ確実につなげていくことが、授業改善の鍵と言えます。児童生徒に「力」を付けるためには、児童生徒の学習状況を見取り、次の指導に生かす授業づくりを行うことが大切です。